

江戸風情・新春落語で初笑い!!

特選 植木寄席

入船亭扇遊

粋で清新、
爽やかな高座で実力派。

「お客様には生の高座におみ足を運んでいただきたい」をモットーに積極的に全国各地で活躍中。数々の受賞歴もさることながら、断家修行に裏付けられた芸。笑わせながら聴かせる、江戸の風情豊かな演目の幅広さは絶品。
(社)落語協会理事

開口一番 入船亭山辰
落語二席 瀧川 鯉昇

興味津々対談

…筋骨のつない楽屋断

◆ ホワイエ特別企画 ◆
落語家の絆は色紙・手ぬぐい展

瀧川 鯉昇

古典にはきき
ナンセンスギャグや
現代的なアレンジは
天下一品!

高座に上がり、ゆったりとしたマクラからたちまち観客を掴んでしまう鯉昇師匠。数多くの受賞歴もさることながら、その飄々とした面白みのある高座で落語本来の楽しさを存分に伝えてくれる。
(社)落語芸術協会監事

熊本市植木文化センター(旧 生涯学習センター)

植木町文化ホール

平成25年1月19日(土)

[開場] 16:30 [開演] 17:00

木戸銭 一般 1,000円 高校生以下 500円 (当日は各500円増) ※全席自由 ※未就学児の入場はご遠慮ください

[チケットのお求め] 熊本市植木文化センター、熊本交通センター、熊日プレイガイド、ウエッキー、きくかわ、宮崎酒店、うちだ万十店、田中商店

[主催] 植木町文化ホール自主文化事業協会、植木町合併特例区

[後援] 熊本県教育委員会、熊本県教育委員会、熊本県文化協会、熊本日日新聞社、NHK熊本放送局、RKK、TKU、KKT、KAB、FMK、FM791

[企画協力] つばなれの会

[お問合せ] 植木まちづくり交流室 096-272-6906

平成も江戸の続き・落語が伝える人情と庶民のきずな・・・

おなじみの出囃子が響く。お目当ての師匠が舞台袖から登場する。扇子(かぜ)を座布団の前に置き深々とお辞儀をする。いくばくかの間合いがあり、何気ない世情のアラで観客のご機嫌を伺い、客席を温めながら演目(ネタ)を捻る。そして名人芸の高座と客席が繋がり、嘶の華が開きなんともいえないひと時が始まる。本日も皆さんとその豊穡な時間を植木町文化ホールで共有できるのです。なんともありがたい限りです。

釈迦に説法ですが…落語は笑いを通して何かを伝えるものです。つまるところ古典落語は江戸の風俗人情や機微を通して人間の温かさを呼び起こしてくれます。人間から地位、カリスマ性や強がりなどの虚像を剥ぎ取れば所詮弱い人間なのでしかありません。立川談志師の言葉を借りれば、落語はその弱くてありのままの人間の業の肯定なのです。そんな落語をたっぷりとお届けできればとの思いで企画をしました。

最近、熊本でも生の落語を聴く機会が増えています。有り難いことですが、落語たっぷりという会はそう多くありません。今回、「平成も江戸の続き」「本寸法の落語たっぷり」をキーワードに入船亭扇遊師匠、瀧川鯉昇師匠の落語をたっぷりと楽しむことができます。こんな貴重な落語会を主催していただきます主催者の植木町文化ホール自主文化事業協会・植木町合併特例区の心意気に感謝です。さて、二番太鼓が鳴りはじめました。師匠の登場を盛大な拍手でお迎え下さい。

[寄席等企画ボランティアの会 つばなれの会 上田博司]



入船亭 扇遊 いりふねてい せんゆう

昭和28年7月5日静岡県熱海市生まれ

《芸歴》

昭和47年11月 入船亭扇橋に入門 前座名「扇ぼう」

昭和52年3月 ニツ目昇進「扇好」と改名

昭和60年9月 真打昇進「扇遊」と改名

平成22年 落語協会理事に就任

《受賞》

昭和58年 NHK新人落語コンクール 優秀賞受賞

昭和58年 国立演芸場花形演芸会 金賞受賞

昭和60年 につかん飛切落語会 奨励賞受賞

平成4年 「入船亭扇遊独演会」にて 文部省芸術祭受賞



瀧川 鯉昇 たきがわりしろう

昭和28年2月11日静岡県浜松市生まれ

《芸歴》

昭和50年4月 八代目春風亭小柳枝(こりゆうし)に入門 「柳若(りゅうじゃく)」となる

昭和52年2月 春風亭柳昇(りゅうしょう)門下となる

昭和55年2月 ニツ目昇進「春風亭愛嬌」と改名

平成2年5月 真打昇進「春風亭鯉昇」と改名

平成17年1月 「春風亭」改め「瀧川鯉昇」を名のり始める

平成20年1月 浜松市やらまいか大使になる

《受賞》

昭和58年 NHK新人落語コンクール 最優秀賞

昭和59年 国立演芸場花形演芸会 金賞受賞

昭和60年 第5回国立演芸場花形若手落語会金賞銀賞の集い 大賞受賞

昭和63年度 につかん飛切落語会 奨励賞受賞

平成1年度 につかん飛切落語会 奨励賞受賞

平成8年 文化庁主催 第51回芸術祭 優秀賞受賞

平成14年度 浜松ゆかりの芸術家顕彰受賞

入船亭 小辰 いりふねてい こたつ

昭和58年11月24日東京都豊島区生まれ

《芸歴》

平成20年2月 入船亭扇辰に入門

平成20年9月 前座となる 前座名「辰じん」

平成24年11月 ニツ目昇進「小辰」と改名

ホワイエ特別企画

落語家の粋な色紙・手ぬぐい展

当日、ホワイエにおきまして、落語家の色紙や手ぬぐいを展示します。

落語家は、見習い、前座と修行し、ニツ目になると晴れて紋付・羽織・袴を着ることが許され、名入りの手ぬぐいを作ることができます。江戸の粋が詰まった落語の小道具「手ぬぐい」と、落語家の「色紙」をご覧ください。